

短期集中日本語・日本文化学習コース（冬季）実施報告

2017年2月8日（水）～2月25日（土）

短期プログラムは、世界の協定校から留学生が集まり、3週間の日程で日本語と日本文化を学習するプログラムです。2016年度冬季プログラムは、初めて日本語に触れる初級クラスから、より発展的な日本語を学ぶ中級クラスまで5クラスが開講され、47名の留学生が参加しました。

プログラムには、関学の学部生33名が「日本語パートナー」として参加し、留学生と交流を深めながら日本語学習をサポートしました。交流授業では、日本語を実際に使ってみるためのタスクが設定されており、留学生と日本語パートナーはともに、自分にとっての日本文化を写真に撮り出したり、異文化交流について街角インタビューを行ったりします。日本文化についても、日本語と英語でのバイリンガル講義を受けた後に和菓子作りを体験し、京都フィールドトリップでは、舞妓さんの踊りを堪能しました。

緊張した面持ちだったウェルカムパーティーから3週間後、終了パーティーでは、名残惜しうに記念写真を撮る留学生と日本語パートナーの姿が見られました。



舞妓さんと一緒に京都にて



和菓子作りを体験



お世話になった先生と教室で

一緒に参加した日本語パートナーの方とたくさん交流できて仲良くなれたことが、一番良かった点だと思います！留学生と会話をして、他の国のことを直接聞く事ができ、お互いに異文化交流もできたと思います。このプログラムに参加させていただいてから、国際交流について以前よりもっと興味を持つようになりました。



福西 真夕さん（前列左側）

日本語パートナー紹介

福西 真夕さん（文学部）

こういった国際交流は初めてで、人見知りということもあり、初めは不安が大きかったのですが、終わってみるとあっという間で、とても充実していました。

普段、私たちが普通に使っている日本語を留学生はこんな風に疑問に思っているんだなあと感じる事が何度もありました。当たり前のように使っている日本語について見つめ直せる機会であり、私自身も本当に勉強になりました。そして留学生、

にしのみや留学生日本語スピーチ大会受賞



前列の3名が受賞者。左からユウイゲツさん、クワン、ドヒさん、リク、ブンクンさん

2月4日、西宮市国際交流協会主催「にしのみや留学生日本語スピーチ大会」が行われました。本学からは留学生8名が参加し、リュウ、メイゲツさん（中国）、吉林大学からの交換学生（の「可愛い人」が最優秀賞、クワン、ドヒさん（文学部の現2年生）の「人生」が努力賞、リク、ブンクンさん（中国、復旦大学からの交換学生）の「好きなように生きる」が特別賞を受賞しました。

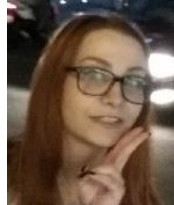
最優秀賞のリュウさんは、老人ホームでのお年寄りとの交流で感じたことをスピーチで話しました。受賞後、ある聴衆の方から「あなたのスピーチを聞いて、私、泣いたわ」と声をかけてもらったそうで、それが最高の褒美だったと言っています。

他の学生たちも練習の成果を十分に発揮し、堂々とした素晴らしいスピーチでした。

選択科目「日本語教育基礎演習」での社会貢献活動体験紹介

小池 優一さん（法学部）

私は国際社会貢献活動に参加し、今年の2月まで5か月間インドネシアの高校で日本語や日本文化の授業を行ってきました。その活動について「日本語教育基礎演習」の授業で紹介する機会をいただきました。日本語の授業では、漢字やひらがなをカルタやビンゴを取り入れながら教えるなど、楽しく学べるように授業プランを工夫しました。日本文化の授業では、日本のポップカルチャーに興味を持つ生徒が多かったため、日本の歌をリスニング練習を兼ねて積極的に紹介したり、正月には日本の書初めの文化を紹介したりしました。



今回の留学にあたり、他大学に留学するという選択肢もありましたが、関西も気に入っているし、知り合いもいるので、また関学を選びました。それに、プログラムのことも知っていたるので、安心して来ることができました。

2014年春からの1年間、学部の交換学生として関学で学びました。この4月から大学院の交換学生として、2回目の留学をしています。

大学院での専攻はアジア研究ですが、留学での一番の目的は日本語の上達です。これまでの学習の程度は話せるようになりつつありますが、それをもっと上達させたいと思っています。これまでの学習に多くの時間を費やしてきたので、途中でやめてその時間を無駄にしたくないんです。まずは、日本語能力試験のN2に合格することが目的です。そして大学院卒業後は、日本に戻って来て働きたいと思っています。

留学生WEEK開催！！

2017年6月5日（月）～6月9日（金）【NUC】

詳しくはHP、チラシをご覧ください

http://www.kwansei.ac.jp/cjle/cjle_009976.html